

当協会の平成 28 年度胃がん検診成績における技師コメントの検討

公益財団法人宮城県対がん協会 放射線課

○八島 幸子、伊藤 祥穂、今野 祐蔵、金子 貴安

【目的】平成 28 年度胃がん検診において、当協会の胃がん検診に従事する技師のコメント提出率、要精検率、発見癌における追加撮影率、描出率、コメント一致率について算出し、コメント提出率による胃がん検診成績への関連について検討することとした。

【対象】平成 28 年度における当協会胃がん検診受診数 176,463 名、提出された技師コメント 5,145 件である。

【結果】当協会胃がん検診における平成 28 年度の胃がん発見率は 0.16%、要精検率は 10,176 名 5.8%、早期癌比率 75%、発見癌における追加撮影率 51%、癌描出率 69%、コメント一致率 49%、技師 32 名の平均のコメント提出率は 3.03%であった。コメント提出率と要精検率に強い正の相関を認め、コメント提出率と発見癌コメント一致率に正の相関、追加撮影率に弱い正の相関を認めたが、癌描出率とコメント提出率との間に相関は認めなかった。

コメント提出率 3%以上の技師 12 名と 3%未満の技師 12 名において、胃がん発見率、要精検率、発見癌における追加撮影率・コメント一致率にて比較したところ、3%以上提出の技師の成績が上回ることを確認した。

【まとめ】当協会における平成 28 年度胃がん検診成績と技師コメントを調査し、相関について統計的に示した。技師コメントの提出率の向上は、胃がん検診成績に寄与すると考えられる。